

教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年3月12日(火) 第2委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 前田智永副委員長 赤木忠徳 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 荘川隆則教育部長 毛利久子教育総務課長 小林裕美教育総務課学校管理係長
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件
 - 1 教育条件整備について
 - 2 その他

午後4時53分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開会いたします。ただいまの出席委員は6名です。よって、直ちに会議を始めます。本会議において、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 教育条件整備について

○五島誠委員長 それでは、本日の協議事項は1点、教育条件整備についてということで学、校適正規模・適正配置基本計画の進捗状況について、教育部教育総務課にお伺いをします。なお、本議題については、先般の予算決算常任委員会の教育民生分科会においてそうした議論の必要性があったわけですが、その際に、本委員会でしようということがありました。明日、予算決算常任委員会ありますが、当初予算審査にも非常に大きくかかわってくるという大きな意見もあったので、本日、少し遅い時間になりましたけれども、何とぞ御容赦ください。それでは、執行者から加えての説明は特段ないですか。ないですね。わかりました。それでは、ここからは質疑の形で進めたいと思います。それぞれ御意見をもらいと思うので、挙手の上、指名を受けて発言をお願いします。前田副委員長。

○前田智永副委員長 本日の定例会の中でも、栗田小学校の進捗等、さまざまな学校について発言があったかと思います。分科会の中でもあったかと思うのですが、いま一度、整理のために言ってもらえればありがたいのですが、いかがですか。

○五島誠委員長 答弁。課長。

○毛利久子教育総務課長 それでは、まず、今具体的に動いている栗田小学校について説明します。本年度に入り、自治振興区から、一部の保護者の皆さんから自治振興区の役員に対して、現在の栗田小学校の人数が非常に少ないので不安に思っているという相談があったと聞いています。それを受けられて、自治振興区でも、このことについては避けて通れない課題だという中で、これまで計画の説明を受けていなかったのが、自治振興区の役員と小学校、保育所の保護者でまずは計画について聞いてみたいという御相談がありました。それを受けて、まずは教育長以下教育委員会の職員が自治振興センターに出向き、田森自治振興区の役員の皆さんと、保育所、小学校の保護者の皆さんに対し、一旦、

説明をさせてもらっています。その後、役員と保護者の方とで話をされて、いろいろと疑問点があるので質疑を含めた説明会をもう1回お願いしたいということがあったので、その次に意見交換を含めての説明会をさせてもらいました。その後、保護者と自治振興区が一緒になって協議を進められ、東城小学校の授業を見てみたいという声があったので、保護者の皆さんに東城小学校を2回御案内しています。保護者、自治振興区と常に連絡をとりながら、まずは保護者会で意思を確認しようということで、いろいろと協議をされる中で、栗田小学校の保護者の皆さんで令和7年4月から東城小学校を希望したいということをまとめられ、それを教育長と田森自治振興区の役員の方に、田森自治振興センターで改めて保護者から報告をされました。その報告を受け、田森自治振興区の皆さんも、自治振興区としてどうするかを検討され、住民説明会を受けて、その中で、保護者がそのように思うのであればということで、田森自治振興区としても令和7年4月からという結論を出されました。これについて、田森自治振興区から、庄原市教育委員会に対して、保護者の意向をくんで令和7年4月に東城小学校と統合するというところで要望書の提出を受けたところです。現在、それぞれから意思表示を受けたということで、受け入れ先の東城小学校との調整等を行っています。今後は、3者の合意を目指して準備を進めていきたいと考えています。それ以外の小学校については、これまで峰田小学校について報告をしていたかと思いますが、峰田小学校については、地元自治振興区が2つあるという状況の中で、今、両方の自治振興区の意見を調整させてもらっている状況です。また、比和中学校については、現状についてPTAの役員と意見交換をする中で、保育所、小学校、中学校の保護者、役員で説明を聞いてみたいということがあったので、一旦、役員の皆さんに説明をさせてもらい、特に職員体制等変わったところもあるので、その次に、ほかの保護者にも聞いてもらったほうがいいのかということで、今、保護者の皆さんで対応を検討してもらっていると伺っています。そのほかの学校については、保護者の役員に児童数の推移等を説明させてもらうようにしていますが、対象校全てを回れている状況ではありません。なかなかPTAの皆さんが集まる機会とこちらの日程がそろっていないので、全ての学校にはなっていませんが、見直しについては、各学校で説明をさせてもらっているのので、改めて、新年度になったら、現状について各学校を回ってみたいと考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 先日、新しく統合された口和小学校と、永末小学校、西城小学校を見て来たのですが、各学校の先生は本当に工夫をされて、よくしておられました。特に図書の本が非常にうまくできていて、これはどうしても褒めてあげないといけないなと、司書の方が一生懸命しているのだなというのがわかりました。永末小学校を見たときには、本当に苦勞をされて、パソコン教室を学校に来られない児童の特別教室という形にされていました。ただ、問題は、部屋に全く余裕がないがために太鼓などが廊下に置いてあり、考えてみると、置くところがないのだろうなという感じがしたのです。火災でもあれば非常に指摘をされる場所だと思ったので、今、地元の保護者からプレハブを増設してほしいという要望がありますよね。学校適正規模・適正配置基本計画があるがためにそれができなくなるのか、そうではなく、学校適正規模・適正配置基本計画があっても今の子供たちの教育環境をきちんとするように努力するのが庄原市だから、要望があればするのだという気持ちなのか、その辺の流れが、1つ踏み込めないところがあるかなと。もう1つは、永末保育所を緊急避難的に放課後児童クラブに使っています。教育委員会とはまた別だけれども、考えてみれば一緒なのです。そういうところの流れが、うまく連携がとれないというのがあるのですが、適正配置について、小学校ごと

に、栗田ができた、峰田ができたと言われましたが、永末については、何年までは凍結するのだという気持ちを先行して話を決めることはできないのですか。その辺はどうですか。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 まず、学校適正規模・適正配置基本計画があるから施設整備ができないのではないかという御質問については、トイレの洋式化をしていますし、学校から修繕等の要望があったものについては随時対応しています。ですので、現状、学校適正規模・適正配置基本計画に載っているから修繕はしませんということではなく、必要な対応は、できることは全て行っている状況です。ただ、今、プレハブのお話がありました。要望もあって、我々もいろいろと調べてはいるのですが、いかんせん敷地が狭いので、グラウンドの取り合いや、駐車場または遊具等の移設であるとか、さまざまな検討をする必要があります。また、費用についても、リースの場合、起債も当たらないし補助制度もないので、財源をどうするかという検討も必要となります。決して一切考えないということではなく、学校とも情報交換をしながら、どういった対応ができるかを一緒に検討しているところです。

○赤木忠徳委員 もう1つ、今の適正配置の関係で、永末小学校だけは、今の状況なら人数がふえた場合はその範囲でないという文章もあるわけです。その辺の結論を出す予定はない、令和8年まではそのままでいくという考えですか。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 現在の計画が令和8年度までとなっています。令和8年度までは現状の人数を維持すると見込んでいるので、こちらについては、今、時期を延期するという文言の中で、当面は統合しないという表現で説明をしています。この児童数の推移については、もともと保護者会からも御要望があり、状況については年に1回、役員に説明をさせてもらい、その際に意見交換もさせてもらっています。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 今説明を受けた中で、トイレは非常にきれいになっていました。本当に合併がある可能性があるので整備をしないという感覚ではないなというのはわかりましたので、引き続き、プレハブについては、太鼓の問題、倉庫の問題も含めて前向きに検討してあげてもらいたいと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 学校適正規模・適正配置基本計画はあと残すところ2年ですよ。地元の方が一番悩まれているのは、この学校は将来にわたって残るのだろうかとか、もう適正配置で統合してしまうのだろうかという将来展望が見えないことに不安を感じておられる。今、とりあえずプレハブの要望書が出ましたけれども、将来にわたってはどうなるのだろうか、その方向性を明らかにしてほしいという思いが非常に強いと思うのです。人数で言えば、今の方針では2年や3年は残る。だけれども、5年、10年先はどうなるかわからないということではあまりにも安定感に欠けるので、子供をよそに行かせたいとか、どこかほかの学校を目指したいということになってしまうのです。だから、その辺はどのように考えておいでなのか、お伺いしておきたいと思います。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 このことについては、永末地域に限らず、近年非常に子供の数が減っている中では、どこの地域は何年までということが言える状況にはありません。我々は年々の住民基本台帳で推計をしているので、それが今、一番確からしい数字であるかと思います。今後の転入、転居につ

いては、なかなか推計が難しく、また、小規模なので1人、2人の差で学級数が変わることもあるので、当面いつまではまだ残しますというよりは、児童生徒数の推移を見ながら学校ごとに、きょうも話をしましたが、保護者の方、地域の方と一緒に、どうあるべきかを協議、検討していくようになるかと思います。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 全ての学校を言っているのではない。永末小学校の場合は今後どのように考えたらいいのかを、方向性をはっきりしてほしいなど。将来はどうなるかわからないけれども、現状は是正をしなければならぬ方向なので対応をすると言われるのか。その不安が大きいのだと思います。

○五島誠委員長 答弁。課長。

○毛利久子教育総務課長 先ほど言ったように、このことについては永末に限ったことではないと、全ての地域、学校が感じておられることだと思うので、同じように対応したいと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。藤木委員。

○藤木百合子委員 永末は、小学校に入らない子供が90人くらいいると聞いたのですが、永末も、今後この2、3年で児童数が非常に減ってくると見られているのですか。

○五島誠委員長 答弁。課長。

○毛利久子教育総務課長 保育所のことについては申し訳ありません。学区等がないので、なかなか一緒にというのは難しいかと思います。永末小学校の児童数を推計していますが、現在、全校生徒数を令和9年が91人、令和10年が78人と見込んでいます。令和10年に78人になるときには、現在の計画で統合対象としている庄原、永末、高の3校の児童数の見込みの合計が355人です。令和5年度5月1日で庄原小学校が352人なので、現在の庄原小学校の児童数と令和10年度で3校合わせた児童数があまり変わらない状況があります。今後は、そういったことも含めて検討していく必要があると考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。藤木委員。

○藤木百合子委員 ということは、令和10年には現在の庄原小学校の人数と3校合わせた人数が変わらないくらいなので、このままいくと令和10年ごろには永末から庄原小学校に行くようになるのではないかということですね。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 これはあくまでも数の話で、実際にそのときの学級編制がどのようになっているかということもありますし、学年によってはクラス数もまた変わってくるかと思います。そのときそのときでどういう状況になるかを推計しながら、保護者の皆さん、地域の皆さんと状況を確認しながら進めていくものであると考えています。

○五島誠委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 ということは、今後、教育条件整備を、補修をしてほしいというところはその都度補修や改善をしていくということだと思いますが、令和10年ごろまでは、ほとんど補足的な修繕で、やり過ぎずと言えはおかしいけれども、それくらいしか改善をしていかないという感じなのですか。

○五島誠委員長 部長。

○荘川隆則教育部長 先ほどから話がありますが、永末小学校は現在も一応は小規模校ということで、学校適正規模・適正配置基本計画で言うと、20人程度のクラスということで統合の対象にはなる格好

です。現在、美湯ハイツの方の児童が多く来られているので、20人前後の学級となり、全校生徒が100名程度となっている状況で、保護者とも協議をする中で、当面は統合を見合わせましょうということでも毎年話をしています。もし、保護者からどうしてもこの時点で統合したいという話があれば、それはそれでまたいろいろな対策を考えていく必要があるかと思えます。現在のところ、保護者も現在の状況がいい、このまま残してほしいという話があるので、こういった形で、いろいろな環境整備をしながら永末小学校の維持をしているところです。先ほど言われた倉庫やプレハブでも、児童の状況、また、先ほど言った転入などの状況で、例えば、急にクラスで10人ふえたりとするともう入らない状況になるので、教室の確保については、プレハブの増設も含めて考える必要があるかと思えますし、そういった対応をしていく必要があるとは考えています。そういったことで、状況を見ながら、というのがあって、何年には何をすることが具体的に言えないのですが、学校とは常にそういった情報交換もしていますし、入学者数等もずっと把握をしています。また、特別支援学級の増設等についても、既にもうこれ以上増設できない状況を見てもらった状況なので、その辺も含め、お金はかかりますが、そういった対応は必ずする必要があるため、そういった取り組みをしてみたいです。

○五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 先ほど課長が答弁をされた考え方で言うと、2028年の児童数から言えば、統合をするべき人数だから、教育委員会とすれば、あくまでも庄原小学校に統合するという基本的な計画で考えているということですよ。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 現在の計画の見直しの中で、永末小学校については延期するという事で整理をしており、基本的な考え方、適正な規模、適正な配置の基本的な考え方は継続をしているので、引き続きと考えています。

○五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 もう一度確認ですが、今は据え置いているだけだと。計画は生きているのだから、適正配置の取り組みは計画に基づいて進めるということですよ。地元の状況や、同意が得られる、得られないとかは関係なく、それはそれだけでも、教育委員会とすれば、計画そのものは生きて、それにのっとって活動を進めるということですよ。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 計画の見直しにおいて、統合については保護者、地域と十分協議をすることとして見直しも行っています。計画の基本的な考え方について説明をさせてもらい、教育環境についても十分説明をする中で一緒に協議をしましょうということを決めています。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 再度確認をしたいのですが、今、学校適正規模・適正配置基本計画に基づいて話し合いをしていると。もしもその途中で保護者ないし地域から要望があれば早めに統合の話もできる。では、逆に、うちは一旦やめてほしいという要望があった場合、それは受けられないのですよね。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 まずは子供たちの教育環境について十分に御理解してもらわないといけないと考えています。我々教育委員会としてはそこが第一なので、御理解してもらえないということですが結論ではなく、引き続き、協議をさせてほしいというお願いをしてみたいです。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 部屋が少ない。行ってみて、実際そうなのです。赤木委員が言われたように。教室そのものは、後ろに立って見るスペースはなかったのですが、これくらいなら20人程度は許容範囲かなという思いもしたのですけれども、いかんせん、ほかの部屋ですよ。ゼロだなという感じを受けたのです。先ほどの答弁で、場所がない、どこに建てればいいのかという感じだと思いますが、ただ1点、放課後児童クラブが2カ所ありますよね。古くて小さいほうを利用してそういったスペースをふやすという考え方も一理あると思いますが、そういったところは、学校とのやりとりの中で話の俎上に乗っているのですか。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 今回の放課後児童クラブの建物については、御承知のように児童福祉課、市長部局所管の財産となっています。状況については、隣接する施設なので常に情報交換をしながら、もし可能であればといったことも含め、担当課レベルでは協議をしています。ただ、児童福祉課で何も結論が出ていない状況なので、それを、情報交換をしながら伺っているところです。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 学校の整備については、方針として、今の子供たちが不自由なくできる方向性だと聞いて1つは安心しています。ただ、問題は、どうしても放課後児童クラブの問題と学校の存続問題とが絡んで話が出てくるのです。今、放課後児童クラブをしているところは、緊急避難的に僻地保育所を使わせてもらっている形なのです。学校自体がそこにあるかないかによって、ある程度、児童福祉課もそこに、例えば、まず僻地保育所をなくしてからトイレを小学生用に整備していくというところまで結論が出せないのだろうと思うのです。ニュアンスからすると、ですから、適正配置の問題が、きちんと結論が出ないと児童福祉課もある程度意識を持ってできないのかなと感じているのですが、その辺はどういうニュアンスで捉えておられますか。

○五島誠委員長 課長。

○毛利久子教育総務課長 言われるように、学校が残るか残らないかは、児童福祉課も方針としてはいろいろと検討をされているところだと思います。今整備している板橋小学校については、規模等は学校適正規模・適正配置基本計画をもとに考えてもらっていると聞いています。永末については、お互いに進捗状況を共有する中で、なおかつ、今の子供たちに不便があってはいけないというところで、どうあるべきか意見交換をしながら、それぞれ進捗状況を共有しながら検討をしている状況です。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 各課でいろいろと検討をしているのはわかります。検討をするのなら前に進まない、今の子供はすぐに卒業していくわけです。そういうつらい立場にさせることが本当にいいのかどうか。その辺はもっと前向きに、児童福祉課と教育総務課が一緒になって永末小学校の方向性を示していく。子供たちのために前に進ませる形にしないと、中途半端な立場になって、今、一番被害をこうむっているのは子供たちだと私は思っています。その辺は、今の教育総務課の考え方からすれば、今の子供たちの環境だけは整備するという考え方であれば、もう1つ乗り越えて、放課後児童クラブのことも含めて、ある程度一緒になって整備する方向性は考えられないのかというジレンマを我々は持っているのです。その辺はどうですか。一緒に協議することはできないのですか。

○五島誠委員長 部長。

- 荏川隆則教育部長　　今回、地域から要望書も出ています。こういったことで、問題意識・課題意識を持っています。ただ、先ほど言ったように、僻地保育所の問題もありますし、もし僻地保育所をなくすのであれば徹底的に改造をするということもあるのですが、その辺の議論も含めて、いずれにせよ言われるようにこのままの状態であって置くわけにいかないの、情報交換をしながら、部間でそういった確認等もしながら何が一番いいかは考えていきたいと思えます。
- 五島誠委員長　　他にありますか。宇江田委員。
- 宇江田豊彦委員　　適正配置の問題も教育総合会議をして最終的に決着をしているわけだから、教育総合会議をして総合的な施策展開を検討したらどうですか。
- 五島誠委員長　　答弁。課長。
- 毛利久子教育総務課長　　申し訳ないのですが、教育総合会議は市長が主催するもので、当然、テーマについては教育委員会からも提案をするのですが、協議の内容については所管する企画課と検討をするようになるかと思えます。教育委員会だけで返事ができないので、申し訳ありません。
- 五島誠委員長　　他にありますか。横路委員。
- 横路政之委員　　部屋が足りない、つくってくれという要望書ですよ。現場と意見交換をしながら、どうすれば最善の方法かを協議していると言われました。それがずるずると行くのがいけないのだと思うのです。夏になりました、年末になりました、永末小学校の保護者からどうなっているのかと言われます。なかなか結論が出ないのですよ。スピード感はどうなのですか、なるべく早くしようと思っているのですか。
- 五島誠委員長　　課長。
- 毛利久子教育総務課長　　永末小学校については、これまでも児童数の増加に応じて部屋の改修を行ったり、倉庫をつくったりといった対応はしてきています。現在、プレハブについて、御提案をしてもらったよりも前から一応検討はしておりましたが、そうは言っても、金額が大きいということ、財源がないこと以上に、建てた場合、今の体育館よりも少し小さいくらいの建物になる見込みになっており、そうすると運動場が非常に狭くなる。果たしてそれがいいのかどうかも含めて、現場の先生方ともしっかりと協議をしないと場所についても決まらない。また、財源をどうするのか市長部局とも協議をしなければいけない。その予算時期をどうするのかといったこともあるので、決して置いているわけではなく、さまざまな課題について整理をしながら検討をしているところです。
- 五島誠委員長　　横路委員。
- 横路政之委員　　私たちは素人感覚なので、プレハブといえば小さいものを連想するのですが、教育委員会として、もしするならば、今ある体育館の半分程度の規模にしないといけない感覚なのですよね。
- 五島誠委員長　　課長。
- 毛利久子教育総務課長　　仮置きのものでは建築関係の許可が得られないということもあるので、しっかりと基礎をつくってということで、今見積りをお願いしているのは、64 平米のものを2つ程度で、水回りを少し、まずは手洗いをつけるくらいでどうかということで業者に相談しているところです。それで、出てきたものがそういった大きさということで、いわゆるプレハブの事務所みたいものをぼんと置くのでは、教育環境としては音や暑さ寒さなど十分ではないということ、しっかりと校舎として使えるものを想定して検討をしているところです。
- 五島誠委員長　　前田副委員長。

○前田智永副委員長　　これまでに要望を出されている保護者であったり地域の方であったりと教育委員会の方が懇談をされているのかということと、今いろいろと見積りを上げてくださったり、トイレの改修であったり改善をしてくださっています。そういった動きを保護者の方、地域の方に説明する機会を設けられているのかお伺いします。

○五島誠委員長　　課長。

○毛利久子教育総務課長　　これまで、修理、修繕等については学校とやりとりをしています。学校長から、いろいろな、学校だよりなどでトイレが洋式になりましたとか、部屋がこうなりましたというのはお知らせをしてもらって、地域の皆さんも目を通されていると校長から聞いています。ただ、我々が直接地域に出向いて学校のことを説明する機会というのはこれまでありませんでした。先般、要望書を持ってこられた際に意見交換をしたところです。なお、前回は説明いたしました、年に1回、児童数等を報告する際に保護者の方から教育委員会に対して直接、学校のことをどうこうという要望があったことがなかったのも、今までは校長と話をしながら、教育環境はどうだろうかということで整備をしてきました。

○五島誠委員長　　他にありますか。改めて、最後に確認です。半月後に迫った新年度の対応、先ほど部長が、これ以上だと特別支援学級などの部屋も難しいかもしれないということも少し言われていたのですが、確認の意味で、新年度、大丈夫か、数が用意できるかをお伺いします。

○毛利久子教育総務課長　　特別支援学級の件については、永末小学校も含めて、判明した時点で学校から御連絡をもらい、すぐに必要な備品、または工事が必要な場合は工事等対応をしており、新年度に間に合うように準備をしています。

○五島誠委員長　　大丈夫ですね。わかりました。他にありますか。よろしいですか。それではこの件については閉じます。執行者の退席を求めます。暫時休憩といたします。

午後5時31分　　休　　憩

午後5時32分　　再　　開

○五島誠委員長　　会議を再開いたします。先ほど教育総務課より、学校適正規模・適正配置基本計画のこと、それから、それに絡み、主に永末小学校の施設面の改修の検討についてお伺いをいたしました。こうしたものについては、もちろんきょう結論を出したりはしません。引き続いて、あした以降の審査であったり、それから、委員会でも引き続いてしっかりと取り組んでまいりたいと思うので、今後ともよろしくお願ひいたします。なお、次回の教育民生常任委員会は、あさって、3月14日、木曜日、午前10時からとなっています。議題については、請願の件ということで紹介議員3名にお越しをしてもらいます。ただ、皆さんに断りを入れないといけないのが、徳永議員がきょう退院で、体調のことがあってひょっとすれば出席がかなわないかもしれませんが、そうした形で行ってまいりたいと思います。御参集をよろしくお願ひいたします。以上で教育民生常任委員会を閉会いたします。

午後5時34分　　散　　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長